

# ふしみサラダボール子育て情報

「ローテンションと思考」

令和4年9月7日号



板橋富士見幼稚園



## 思いめぐらす没頭を育てよう

子どもはどんな時でも一生懸命です。親や仲間を呼ぶ時も、走る時も、食べる時も、遊ぶ時も、常に一生懸命です。振り返ることのない前向きな姿勢や成長に、大人はみんな「子どもからパワーをもらおう」と言います。

大人はこの前向きな熱血感溢れる姿に接すると、自分も頑張らなくてはと思うようになるそうです。

大人から見ると他愛のないことに、夢中になったり没頭したりする姿をよく見かけます。夢中になることと没頭することは似ていますが、実は大きく違いがあり、それぞれある条件によって起こると言われています。

まず、夢中な子どもの姿をよく見ると、行動的な姿が含まれています。例えば、興味や好奇心に導かれ、心が抑えきれないほど高ぶり、夢中になっていることがあります。この夢中になって関わるということは、幼児期の成長には欠かすことのできない出会いとなります。夢中には、ハイテンションの心の揺さ振りがあるため、自分の思いや感情を相手に伝え、仲間と語り合おうとする姿も見られます。



では、没頭はどんな心の揺さ振られ方なのでしょうか。没頭は、ある行為にのめりこみ、周囲の環境から離脱する場となっています。没頭していると、強い思考と判断と推測の力が働き、一点に集中していることが多く見られます。そのため、没頭は必ずざわつきのない静かな環境の中で起こるとされています。子どもの知的な発達を伸ばしていくためには、その子の好奇心を掻き立てるモノと人と時間が必要です。

つまりハイテンションの中で見られる夢中と、ローテンションの中でみられる没頭を、バランスよく大人がコントロールしてあげることが、子どもの知的な発達を伸ばす秘訣かもしれません。

ハイテンションな生活の中に、時にローテンションの場や時間をつくることをお勧めしたいと思います。

